

令和6年度予算の進み具合

※9月30日現在。金額は令和5年度からの繰越事業費を含むもので、1万円未満は四捨五入しています

■一般会計

歳入名	予算額	収入額	執行率
市税	36億5,423万円	21億6,273万円	59.2%
地方交付税	68億9,742万円	47億2,886万円	68.6%
国庫支出金	48億4,373万円	7億209万円	14.5%
県支出金	15億8,527万円	1億437万円	6.6%
市債	30億3,533万円	0万円	0.0%
その他	46億721万円	22億92万円	47.8%
合計	246億2,310万円	98億9,897万円	40.2%

歳出名	予算額	支出額	執行率
総務費	46億112万円	14億3,809万円	31.3%
民生費	66億9,686万円	26億5,269万円	39.6%
衛生費	15億2,787万円	5億6,207万円	36.8%
農林水産業費	9億6,340万円	2億9,910万円	31.0%
商工費	9億2,915万円	5億4,261万円	58.4%
土木費	21億1,775万円	7億2,244万円	34.1%
消防費	9億8,836万円	3億3,085万円	33.5%
教育費	36億9,408万円	8億1,361万円	22.0%
災害復旧費	5億5,527万円	3,766万円	6.8%
公債費	22億9,065万円	11億4,300万円	49.9%
その他	2億5,859万円	1億2,384万円	47.9%
合計	246億2,310万円	86億6,596万円	35.2%

■特別会計

会計名	予算額	支出額	執行率
国保(事業勘定)	35億6,798万円	13億8,229万円	38.7%
国保(直診勘定)	1億9,281万円	1,837万円	9.5%
後期高齢者医療	4億3,757万円	1億3,764万円	31.5%
魚市場事業	1,637万円	414万円	25.3%
合計	42億1,473万円	15億4,244万円	36.6%

■公営企業会計

事業	区分	予算額	支出額	執行率
水道事業	収益的支出	11億639万円	1億8,516万円	16.7%
	資本的支出	10億6,401万円	2億1,908万円	20.6%
下水道事業	収益的支出	12億7,157万円	1億8,312万円	14.4%
	資本的支出	11億1,533万円	2億7,007万円	24.2%
合計		45億5,730万円	8億5,743万円	18.8%

用語の説明

表に出てくる分かりづらい主な用語を説明します

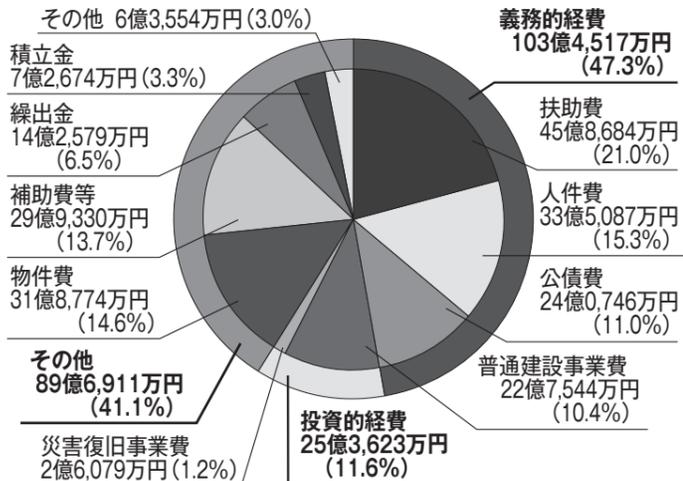
【収入の関係】

▶**地方交付税**…人口や環境などの違いで生まれる地方間の格差を調整するために国から配分されるお金です。所得税や法人税などがもとになっています

【支出の関係】

- ▶**民生費**…福祉や子育てを支援するために使うお金
- ▶**総務費**…企画調整事務、庁舎や財産の維持管理、戸籍管理、税金徴収など市の運営全般に使うお金
- ▶**公債費**…市の借金返済などに使うお金
- ▶**教育費**…学校や生涯学習、スポーツなどを推進するために使うお金
- ▶**衛生費**…環境の保全や健康を増進するためなどに使うお金
- ▶**土木費**…道路や公園などの整備や補修に使うお金
- ▶**商工費**…商工業や観光を促進するために使うお金
- ▶**消防費**…消防や災害対策などに使うお金
- ▶**農林水産業費**…農林水産業の振興などに使うお金
- ▶**災害復旧費**…災害によって被害を受けた施設や道路などを復旧するためのお金
- ▶**扶助費**…子どもや高齢者などの支援に使うお金
- ▶**義務的経費**…支出が義務付けられていて、市の判断で削減することが難しいお金
- ▶**投資的経費**…道路や漁港、建物などを整備するために使ったお金

■性質別歳出



■特別会計

会計名	収入額	支出額
国保(事業勘定)	39億3,567万円	38億5,331万円
国保(直診勘定)	1億3,225万円	1億3,225万円
後期高齢者医療	3億8,703万円	3億8,605万円
魚市場事業	1,660万円	1,660万円
合計	44億7,155万円	43億8,821万円

■公営企業会計

事業名	区分	収入額	支出額
水道事業	収益的収支	9億2,662万円	9億3,406万円
	資本的収支	2億8,956万円	6億4,761万円
下水道事業	収益的収支	11億5,828万円	10億6,555万円
	資本的収支	8億3,029万円	14億8,341万円

業で得られる収入で経費をまかなう独立採算制を原則とした「公営企業会計」があります。

市の特別会計には、国民健康保険や後期高齢者医療などがあり、収入の合計は44億7155万円、支出の合計は43億8821万円となりました。

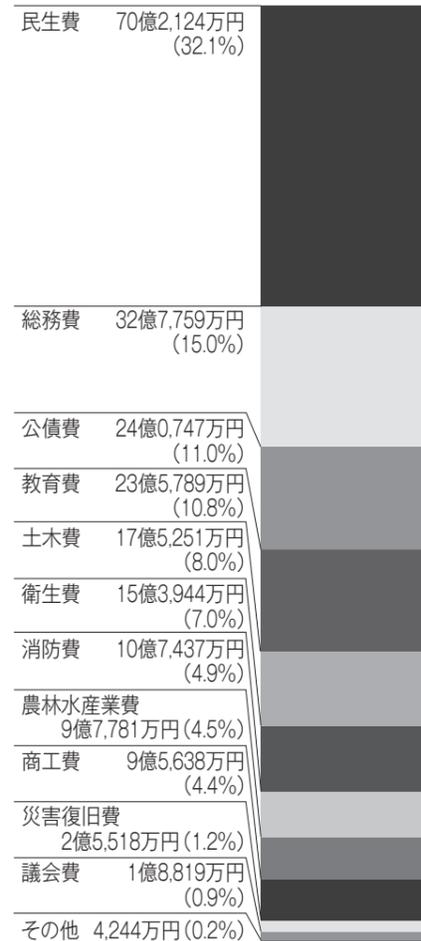
公営企業会計に該当する水道・下水道事業会計は、皆さんから納めていただく料金を主な収入としています。旧簡易水道や市内消火栓の維持管理費、雨水排水処理費などは一般会計から補填しています。

■財政の健全化が必要です！

- 実質公債費比率 11.3%** (県内の市平均10.9%・市令和4年度11.6%)
毎年入ってくる収入のうち、何%が借金返済に使われたかを示すもので、過去3年間の平均値です。25%を超えると市債の借入れが制限されます。
- 将来負担比率 88%** (県内の市平均49.7%・市令和4年度84.4%)
毎年入ってくる収入に対する、将来に負担が見込まれる借金の割合です。将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標となります。
- 経常収支比率 96.1%** (県内の市平均93.6%・市令和4年度96.8%)
市が毎年実施している事業に充てる経費を、毎年入ってくる収入で割った数値です。80%を超えると財政は苦しいといわれています。

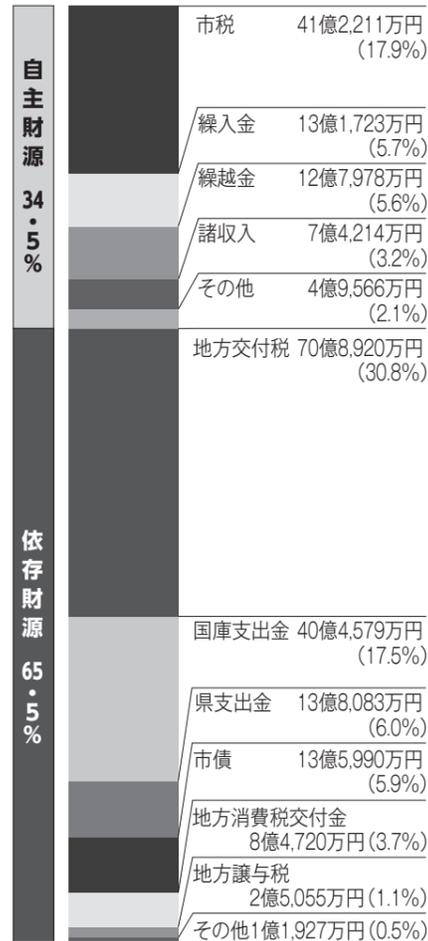
■一般会計歳出

218億5,051万円



■一般会計歳入

230億4,966万円



決算

令和5年度

市の財政は、皆さんから納めていただいた税金や国からのお金などで成り立っています。今回は市議会9月定例会議で認定された令和5年度の決算の概要をお知らせします。 ※金額は1万円未満を四捨五入しています。

自主財源は34・5%

「一般会計」は福祉や教育、土木など市の基本的な仕事のための会計です。令和5年度の決算は、歳入(収入)が230億4966万円、歳出(支出)が218億5051万円となりました。

歳入で最も多いのは、国から配分された地方交付税の70億8920万円。財源別にみると、地方交付税や国庫・県支出金などの依存財源が約65・5%を占め、財源の大半を国や県に頼っている状況です。これに対して、市税などの自主財源は約34・5%。自主財源が多いほど市政の自主性と安定性が保てます。

健全な財政運営を進めるため、自主財源の割合を高めていく必要があります。

一般会計10億8千万円減

歳出では、久慈湊小学校移転事業や道路維持補修事業などにより教育費、土木費が増加しました。一方で広域道の駅などの施設整備の完了により、総務費や商工費が大幅に減少。前年比10億8154万円の減額となりました。引き続き効率的な事業の実施に努め、財政の健全な運営を図っていきます。

特別公営企業会計の状況

市の会計には一般会計のほか、特定の事業や収入・支出を一般会計と区別して処理する「特別会計」と事

